

教育研究業績書

2017年05月29日

所属：教育研究所

資格：教授

氏名：上田 孝俊

研究分野	研究内容のキーワード
生徒指導論 臨床教育実践学	教育的人間関係の構築
学位	最終学歴
博士（学術）、教育学修士	神戸大学大学院 総合人間科学研究科 人間形成科学専攻 博士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 1日15分で一生使える 中学3年間の日本史	共	2016年09月20日	PHP研究所	日本史の主要な「出来事」を40項目あげ、それぞれの原因やその後の影響を多面的に記述した。監修に当たる。(188ページ)
2. 3・11 あの日のこと、あの日からのこと	共	2011年9月4日	かもがわ出版	東日本大震災を体験した教師の聴き取りから、教師がとった行動の意味とそれが子どもたちに与えた教育的意義について検討を加えた。(pp.108-116、田中孝彦、中森孜郎、筒井潤子、上田孝俊ら 著者の11番目)
3. 小学生の日本の歴史学習事典	共	2011年6月17日	PHP研究所	小学6年生の社会科(歴史)学習について、各時代の事績、出来事の重要なものを系統づけながら学習できるようにした。監修にあたる。(79ページ)
4. 川の研究 生き物や人とのかわりを探ろう!	共	2010年9月28日	PHP研究所	川と地形、川の生き物、河内人々との生活との関係について、小学生の調べ学習の参考となる内容で構成し、学習課題なども掲載した。監修にあたる。(63ページ)
5. 郷土をつくった偉人事典	共	2010年3月	PHP研究所	小学校社会科、総合的な学習の時間の教材として都道府県別に歴史的な偉業に取り組んだ人物を取り上げ紹介し、小学生が郷土学習に取り組む方法を示した。監修にあたる。(103ページ)
2 学位論文				
1. 占領軍政下における滋賀県実験学校教育課程の研究～教科主義と生活カリキュラムの分化～	単	2006年12月		戦後初期の社会科カリキュラムが社会認識型、生活単元型、日常生活課程型に類型化されるが、それぞれの成立の過程において、新教科「社会科」で社会認識過程を追究した、47年学習指導要領の教科の生活化に適用させその範を戦時下からの生活単元に求めた、戦後アメリカ社会科の学校のコミュニティ化を取り入れたという段階性を、戦後教育政策と関連づけて考察した。(144ページ)
2. 及川平治「動的教育論」に関する研究―「題材」における活動概念の分析を中心に	単	2001年1月		及川平治の動的教育論の教育思想形成における社会的背景を考察し、個に着目する活動的な学習の時代的意味と、「題材」に基づく子どもの主体的学習に着目したカリキュラムの実践的意義について健闘した。(78ページ)
3 学術論文				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
1. 低線量被ばくのなかで生きる母親の孤立感と一時避難・一時保養の意義（査読有）	共	2016年3月31日	日本臨床教育学会編集『臨床教育学研究』第4巻（正文社）、pp. 39-55。	長期的低線量被ばくは「見えない災害」であり、被災の事実は人々の「語り」に内包される。被災地の人々は、安全をアピールする支配的なストーリー、家族や周囲の人々の対立的なストーリーと交錯し、自身の支えとするストーリーを抑圧させていく苦悩に苛まれる。一時避難・保養のなかではそれらが「語られ」、受容されることが見いだされた。[はじめに・1・2・おわりに]を担当。（上田孝俊・宗像家子）
2. 「感情を受けとめられる」場としての授業（査読付）	単	2011年3月	『臨床教育学研究』第17号、pp. 1-16、武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科	ハーバーマスのコミュニケーション的理性に関する3つの視点（真理生、規範性、誠実性）は、学校生活において学習者が獲得する「学力」を問い直し、再定義を迫っている。特にその基盤的な能力として、言動の背景にある感情の理解が学習保障されることの意義を論じた。
3. 東日本大震災についての教師の聴き取り調査報告	単	2011年10月10日	日本臨床教育学会編集、『臨床教育学研究』第0巻（群青社）、pp. 150-162。	学校・地域・人々が物語をもつことが危機（分かれ道）対応に際しての規準となることを、震災体験者の聴き取りから論じた。
4. 反抗の教育的意味—文部科学省「平成20年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果（暴力行為、いじめ等）について」の検討をとおして—（査読付）	単	2010年3月	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科、『臨床教育学研究』第16号、pp. 1-13。	文部科学省の問題行動の調査とその分析について批判的に検討した。不登校は全国的な課題でとされるが、「暴力行為」や「いじめ」は調査結果から都道府県によって発生率が大きく異なる極めて地域的な課題としか読み取れず、都道府県別の実情に応じた個別の対策をとる必要があるということしか明らかにならない。生徒指導の深化のための調査であるなら、傾向から煽るのではなく事実が読み取れる範囲での分析にとどめるべきであると論じた。
5. 生徒の課題に即して連携を築く教師の専門性と実践（査読付）	単	2010年12月15日	『臨床教育学論集』武庫川臨床教育学会、第4号、pp. 26-37。	底辺校の普通科高等学校における困難状況の分析と、軽度の知的障害をもつ生徒の進路保障に関わる教師のコーディネーションの取り方について論考した。
6. 寄り添われる学習体験が子どもを支える	単	2009年10月5日	全国公立学校教頭会編、『学校運営』No.579、pp. 20-23。	授業において教育的な人間関係はいかに構築されていくのか。子どもたちの相互共同性と教師の支援について実践をもとに考究した。
7. 教育的な人間関係の構築についての一考察（査読付）	単	2009年03月	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科『臨床教育学研究』第15号、pp. 1-14。	関係発達論における「同化」の過程を、「同化」とそれに対する育てられる側の「異化」の過程との相互主体的なものとしてとらえ、支援者の変容や友人としての装いの意味を考察した。
8. 戦後「新教育」形成期における教科主義と生活カリキュラムの分化について～滋賀県新教育実験学校のカリキュラム分析～（査読付）	単	2007年3月	『神戸大学発達科学部研究紀要』第14巻第2号、pp. 57-68。	戦後初期における滋賀県新教育実験学校のカリキュラムを分析し、滋賀県師範学校女子部附属小学校の1947年度教科主義的なカリキュラム研究と1948年度の教科の生活化に基づく教科枠を越えた生活カリキュラムの各校への特化的な広がり過程を明らかにした。
9. 戦後初期における教育課程編成の理論とその変化～滋賀県新教育実験学校稲村小学校の実践と「恒常課程」～（査読付）	単	2006年10月	『神戸大学発達科学部研究紀要』第14巻1号、pp. 15-26。	西日本の占領軍政下の民主教育政策の一つとして教職員によるカリキュラムの自主編成があった。コミュニティ・カリキュラムは民主社会の機能を学校に再現し、それを担う資質を発達段階における学習目標としてかけ実践した。近代アメリカ型の民主社会実現を目標としたカリキュラムと位置づけられる。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 東日本大震災後、宮城の教師たちはどのような教育実践の課題に取り組んできたか	単	2015年09月26日	日本臨床教育学会第5回研究大会（北海道教育大学札幌校）	日本臨床教育学会震災調査チームの一員として4年間の取り組みを概観し、学校教育史上初めての管理下で起こった震災として教師の果たした役割や、児童・生徒の感情を理解した援助的なカリキュラムの構想とその実践化に取り組む教師たちの事例を報告し、今後の研究課題を提起した。
2. 社会人大学院における援助職の「共育」の意味と課題	単	2014年9月27日	日本臨床教育学会第4回研究大会	臨床教育学の方法論の一つは、「自己理解」にあることにはすでに論議されてきたことだが、そうした「自己理解」のプロセスに同伴することが援助職の専門性の養成に不可欠であり、知識・能力や経験からの専門性の基底となることを、院生の研究過程をたどりながら明らかにする。
3. 占領軍政下における実験学校のコミュニティ・カリキュラム	単	2012年9月30日	日本臨床教育学会第2回研究大会	戦後占領軍政下で、実験学校の組織化を行い民主主義教育への転換をはかる動きが西日本のいくつかの地域で推進された。その目的と初めての教師によるカリキュラム編成の過程を検討し、日本の教師による主体的な民主教育実践がみられたのかを問い直した。
4. 宮城県の教師・学校・地域の声か	単	2012年3月	日本教育学会「大震災	震災体験の教師の語りから、日常における教師と子

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
ら考えること			と教育」特別課題研究 グループシンポジウム	どもの教育的人間関係の構築、および個別的な危機 の想定と民主的合意が、安全を生み出す創意と工夫 に繋がり、それが子どもの絶対的安心感を生み出す ことを指摘した。
5. 教師たちの震災体験の語りから、 地域と学校のあり方を考える	単	2011年10月	日本臨床教育学会第1回 研究大会	震災調査から学校・地域の抱える課題を提起した。 教師・子ども・地域の人々の知識・対話・感情の交 流が、震災の中でもみられ、それは教育的状況であ ったと報告した。
6. 社会人大学院における「経験を語 る」ことを中心においた授業の試 み	単	2008年10月	日本教師教育学会第18 回研究大会	担当する「臨床教育実践学」を受講する社会人大学 院生が、職場や地域の友人に対しておこなった支援 ・相談体験を記述し、その意義と課題について検討 した。支援者としての立場にながらも、自ら悩み 事を切り出し、訴える側に「相談にのってもらう」 会話の語り口が、訴える側に安心感と信頼感をもた せ、相談効果があがることが検証された。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 滋賀県教育会雑誌目次一覧	単	2009年3月30 日	武庫川女子大学教育研 究所	全国に散逸する滋賀県教育会雑誌の目次一覧を作成 。「滋賀県教育会雑誌復刻の意義と今後の研究展望 」の標題で、研究課題を提起した。(151ページ)
6. 研究費の取得状況				
1. 地域の変容と教育実践の模索ー石 巻市雄勝町の小学校実践からー	単	2015年03月 刊行予定	【平成24-26年度科研費 基盤 (A) 24243973「東 日本大震災と教育に関 する総合的研究 研究 成果報告書 (全体編そ の2)」 (代表：藤田 英典、日本教育学会モ ノグラフ・シリーズ) 、13 p。	東日本大震災被災地では、居住の制限・就業場の喪 失に伴い、学校統合や廃校が進んでいる。地域を基 盤とした教育実践が、被災後行われていない現況の 問題点と課題を、地域調査を基盤に考察した。子ど もの被災前の生活空間を迎える活動が、被災の心象だ けでなく、自己の存在感を再構築することに繋がっ ていた。
2. 惨事にあった子どもたちにとって の教師の役割	単	2014年3月28 日	平成24-26年度科研費基 盤 (A) 24243973「東日 本大震災と教育に関す る総合的研究 研究成 果報告書 (全体編その1)」 (代表：藤田英典 、日本教育学会モノグ ラフ・シリーズNo.5) p p. 51-61	子どもが心身に大きなダメージを受けたとき (震災 ・津波からいじめ・暴力まで)、その感情を理解し うる“誰か”の存在が決定的に重要であること、そ してそのことが、将来リマインダーによる惨事の感 情の賦活場面に出会っても、乗り越えることができ る基盤になることを考えた。
3. 東日本大震災の現地調査～教師か らの震災体験の聴き取り～	単	2012年3月	科研費共同研究(基礎研 究A) (課題番号212430 4、代表：田中孝彦)「 臨床教育学の構築と教 師の専門性の再検討」 『臨床教育学と教師の 専門性 研究資料集Ⅲ 』 pp. 27-33	2011年度における仙台市、山元町、亘理町、石巻市 の教師や子どもたちからの聴き取り調査の方法と結 果について報告した。教師と子どもとの日常的な教 育的人間関係の構築が、危機場面での安心感に繋が り、その結果、リマインダーの抑制、回復過程での トラウマの低減、ひいては子どもの希望に導くであ らうことを、短期の調査ではあるが想定できた。
4. 武庫川女子大学大学院調査の中間 総括	単	2011年3月	科研費共同研究(基礎研 究A) (課題番号212430 4、代表：田中孝彦)「 臨床教育学の構築と教 師の専門性の再検討」 『臨床教育学と教師の 専門性 研究資料集Ⅱ 』 pp. 194-199	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科における臨 床教育学の構想とその教育課程を整理し、修了生か らの聴き取りをもとに、現職教員の臨床的課題 (生 徒指導) を研究するためのリカレント教育のあり方 として、エスノメソドロジカルあるいはナラティブ な探究手法が有効であることを確認した。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2015年1月～現在	日本臨床教育学会『臨床教育学研究』編集委員
2. 2014年9月29日～現在	日本臨床教育学会理事・事務局次長
3. 2011年3月19日から2014年9月28日	日本臨床教育学会 事務局次長
4. 2010年5月から2011年3月	芦屋市社会教育委員
5. 2009年6月から2013年3月	西宮市青少年問題協議会 委員(副会長)
6. 2008年8月～現在	武庫川臨床教育学会理事
7. 2008年7月～現在	兵庫県教員10年目研修講師